

# 平成25年度 教育事務事業点検評価報告書

平成26年11月  
宮古島市教育委員会

## 目 次

事務事業の点検評価書発行にあたって	・・・・・・・・	1
1. 点検評価について		
(1) 点検評価の趣旨	・・・・・・・・	2
(2) 本市の主要施策		
(3) 点検・評価の方法		
2. 事務事業評価一覧表	・・・・・・・・	3
事務事業点検評価書		
1.    I－1    学校規模適正化の推進	・・・・・・・・	4
2.    I－2    人材育成特別推進事業	・・・・・・・・	5
3.    I－3    特別支援教育支援員配置事業	・・・・・・・・	6
4.    I－4    その日の学び振り返り研究事業	・・・・・・・・	7
5.    I－5    学力向上対策事業	・・・・・・・・	8
6.    I－6    教育研究所運営事業	・・・・・・・・	9
7.    I－7    教育の日市民大会	・・・・・・・・	11
8.    II－1    夢実現助成事業	・・・・・・・・	12
9.    II－2    生涯学習フェスティバル事業	・・・・・・・・	13
10.   II－3    海外ホームステイ補助金	・・・・・・・・	15
11.   II－4    公民館管理運営事業	・・・・・・・・	16
12.   II－5    図書館の基本サービス・行事の充実	・・・・・・・・	18
13.   II－6    子ども劇団設立事業	・・・・・・・・	20
14.   III－1   スポーツマネジメントプラン策定事業	・・・・・・・・	21
15.   IV－1    市埋蔵文化財公開活用事業	・・・・・・・・	22
16.   IV－2    市史編さん事業	・・・・・・・・	23
17.   IV－3    宮古島市neo歴史文化ロード整備事業	・・・・・・・・	24
18.   IV－4    収蔵品図録等作成事業（歴史編）地域豊かな精神事業	・・・・・・・・	25
19.   V－1    教育委員会活動	・・・・・・・・	26

## 事務事業の点検評価書発行にあたって

平成19年6月27日に公布（平成20年4月1日施行）された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」第27条において、新たに教育委員会の所管する事務事業の管理及び執行状況について、外部の学識経験者の知見を活用し、点検及び評価を行い、その結果について、議会に提出するとともに、広く公表することとされました。

宮古島市教育委員会では、同法に規定する教育行政事務事業の点検評価をするにあたり、教育に関し学識経験者の意見を聴取する形の有識者会議を開催し、教育主要施策5項目のうちから19事務事業について、評価をいただきました。

教育委員会としましては、この評価を本市の教育行政に役立てつつ、さらに、市民からの情報、ニーズも幅広く収集し、事業の活性化と充実について、なお一層の努力を傾注するものであります。

平成26年11月

宮古島市教育委員会

### 地方教育行政の組織及び運営に関する法律

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## 1. 点検評価について

### (1) 点検評価の趣旨

本市においては、「個性豊かな文化をはぐくみ、一人ひとりが輝く島」をめざし、教育行政の指針となる教育施策を策定しました。その施策項目を基本とした各事業を展開し、その成果について点検評価を実施しました。この事務事業評価については、より良い教育環境づくりを推進するため、次年度の施策展開に活用してまいります。

なお、この事務事業点検評価は平成25年度を対象とし、教育委員会の機能充実の視点から抽出いたしました。

### (2) 本市の主要施策

- I 「学校教育」            生きる力を育てる学校教育の推進
- II 「社会教育」          みんなで学ぶ生涯学習
- III 「スポーツ振興」        スポーツアイランドの確立
- IV 「文化振興」          文化の振興と文化財の保存・保護並びに活用の推進
- V 「教育行政の充実・強化」      教育の使命を尊重する開かれた教育行政を目指して

### (3) 点検・評価の方法

事務事業の点検・評価にあたっては、「必要性」「効率性」「有効性」を基準として踏まえ「A＝拡充」「B＝継続」「C＝改善」「D＝廃止」「E＝完了」の五段階で、内部評価を行い、さらに有識者による点検・評価を行った。

2. 事務事業評価一覧表

評価書 番号	所 管 課	事 務 事 業 名	評価
I-1	学校規模適正化対策班	学校規模適正化の推進	A (拡充)
I-2	学校教育課	人材育成特別推進事業	A (拡充)
I-3	学校教育課	特別支援教育支援員配置事業	A (拡充)
I-4	学校教育課	その日の学び振り返り研究事業	A (拡充)
I-5	学校教育課	学力向上対策事業	A (拡充)
I-6	学校教育課	教育研究所運営事業	A (拡充)
I-7	教育総務課	教育の日市民大会	B (継続)
II-1	教育総務課	夢実現助成事業	C (改善)
II-2	生涯学習振興課	生涯学習フェスティバル事業	A (拡充)
II-3	生涯学習振興課	海外ホームステイ補助金	A (拡充)
II-4	中央公民館	公民館管理運営事業	A (拡充)
II-5	平良図書館	図書館の基本サービス・行事の充実	A (拡充)
II-6	文化ホール	子ども劇団設立事業	A (拡充)
III-1	市民スポーツ課	スポーツマネジメントプラン策定事業	E (完了)
IV-1	生涯学習振興課	市埋蔵文化財公開活用事業	A (拡充)
IV-2	生涯学習振興課	市史編さん事業	A (拡充)
IV-3	生涯学習振興課	宮古島市neo歴史文化ロード整備事業	A (拡充)
IV-4	総合博物館	収蔵品図録等作成事業 (歴史編) 地域豊かな精神事業	B (継続)
V-1	教育総務課	教育委員会活動	A (拡充)

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：学校規模適正化対策班

【主要施策】

I 学校教育 生きる力を育てる教育の充実

【事務事業名】

学校規模適正化の推進

【目的・計画概要等】

【目的】教育環境の整備と学校施設の充実のため、学校規模適正化の推進を図る。

- ・平成26年度までに来間中学校を下地中学校へ統合する。
- ・平成27年度までに宮原小学校を鏡原小学校へ統合する。
- ・平成31年度までに伊良部中学校と佐良浜中学校を1校へ統合する。(新設)
- ・平成33年度までに福嶺中学校、城辺中学校、西城中学校、砂川中学校を1校に統合する(新設)
- ・来間小学校、下地小学校については中学校の結果を見守り、統合の時期について速やかに決定する。
- ・伊良部小、佐良浜小については児童数の推移や中学校の結果を見守り、統合の時期について速やかに決定する。
- ・福嶺小、城辺小、西城小、砂川小については、児童数の推移や中学校の結果を見守り、統合の時期について速やかに決定する。
- ・北部地区中学校(池間・狩俣・西辺)、小学校(池間・狩俣・宮島・西辺)については統合に関する課題の整理がつき次第、統合の時期や方法について速やかに決定する。

【実施状況】

・宮古島市立学校規模適正化基本方針一部見直し(平成25年4月決定)に基づき、来間中学校を下地中学校に統合した。  ・県内先進地として、名護市立小中一貫校緑風学園久志小学校・久志中学校の視察、那覇市立泊幼稚園の視察を行った。	決算額(財源内訳)	
	国・県	0 円
	地方債	0 円
	その他	0 円
	一般財源	711,074 円
	計	711,074 円

【担当者説明】

区分	説明	評価	担当者(主管課)評価・コメント
必要性	児童・生徒の教育環境の整備には更なる推進の必要性があり、また市の関与は妥当である。	A	総合評価：B(継続)  統合時期未定となっている地域についても、住民理解を得るように努め、現在の計画をさらに拡充していく必要がある。
効率性	予算の効率性は適正である。	B	
有効性	実績として来間中学校を下地中学校に統合し、有効性はある。	B	

\*評価及び総合評価 (A=拡充 B=継続 C=改善 D=廃止 E=完了)

【内部評価】

児童・生徒の減少に伴い、小規模校や複式学級のある過小規模校が増加しており、児童・生徒の教育環境・教育条件をより良いものに改善し、クラス替えのできる複数学級を基本とし、1学級25から30人の児童・生徒で構成される学校規模を確立できるように学校規模適正化を推進する必要がある。	総合評価 A (拡充)
--	-------------------

【外部評価】

少子化傾向に伴う学校統廃合等は本市のみならず、本県、他県及び我が国全体的な大きな社会問題と化し、多くの行政区で対策が急速している。「国家百年の計は教育にあり」と言われ、人材育成は常に最良な形で施す必要がある。将来を担う最も多感な幼児・児童・生徒の教育環境整備は適切に行うことが大切である。心豊かで相互扶助、協調性、切磋琢磨等の人づくりができる学校規模適正化の推進にご尽力いただきたい。	総合評価 A (拡充)
--	-------------------

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名： 学校教育課

【主要施策】

I 学校教育 生きる力を育てる学校教育の充実

【事務事業名】

人材育成特別推進事業（魅力ある学校づくり推進事業）

【目的・計画概要等】

魅力ある学校づくりを実現するため、園長、学校長の推進計画に基づいた補助金を交付することにより、主体的な学校経営を支援し、学校教育の充実に資することを趣旨とする。  
本事業においては、その趣旨に基づき、各幼稚園、小・中学校において、生きる力を育み魅力ある学校を実現するための事業を推進するものとする。

【実施状況】

1. 実施校においては、以下のいずれかに焦点を絞って行う。 ① 確かな学力を向上させる取り組み ② 健康・体力を向上させる取り組み ③ 豊かな心を培う取り組み 2. 補助金交付状況 ① 幼稚園：無し、0円 ② 小学校：16校、4,619,670円 ③ 中学校：10校、3,243,420円 3. 各学校の活用内容 文科省教科調査官・大学教授等招聘による校内研修会、速読講座、放課後学習支援員、追い込み漁など体験活動、その他 4. 市教委による活用内容 家庭教育講演会、地域啓発用横幕とのぼり作成 活用額：448,745円	決算額（財源内訳）	
	国・県	0円
	地方債	0円
	その他	0円
	一般財源	8,311,835円
	計	8,311,835円

【担当者説明】

区分	説明	評価	担当者（主管課）評価・コメント
必要性	各学校の現状・課題に即したより実効性ある教育活動の展開・充実に資するため、その予算措置は不可欠である。	A	総合評価：A（拡充） 学力向上など管内の小中学校における喫緊の課題への対応には、それぞれの学校の現状と課題に即した取組が求められるが、研修会の充実、朝及び放課後の時間の有効活用、効果的な体験活動などに、本事業の趣旨を生かした教育活動が実現されている。 特に、研修会の充実への効果は大きく、離島という本市の地域性から、文科省や大学教授から指導を受ける機会に恵まれず教職員の指導力・授業改善の取組は決して十分なものではなかったが、本事業の活用による講師招聘等によりその課題の克服が可能となっている。今後も継続・拡充が必要である。
効率性	特に、文科省や大学からの講師招聘については、管内小中学校への参加呼びかけにより、効率的な研修会実施と成果の共有に生かされている。	A	
有効性	講師招聘や体験活動など学校の主体的で多様な教育活動の展開は、教師の指導力、児童生徒の学力等の向上に繋がっている。	A	

\* 評価及び総合評価（A＝拡充 B＝継続 C＝改善 D＝廃止 E＝完了）

【内部評価】

幼児・児童・生徒一人ひとりに確かな学力などの「生きる力」を育むことを目指して、基本的な生活習慣の形成を基盤として、幼・小・中の各学年で身につけるべき内容の確実な定着のために連携の確立やマネジメントサイクルの確立などを通して具体的な実効性のある人材育成推進事業を積極的に推進する。	総合評価 A (拡充)
---	-------------------

【外部評価】

各学校の努力により学力向上の成果が出ていると思います。せっかくの自由に使える資金ですので各校長先生は単なる予算不足の補充ではなく、しっかりした目標設定をして中期的に活用する計画を立て予算の有効活用を計って頂きたい。	総合評価 A (拡充)
---	-------------------

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名： 学校教育課

【主要施策】

I 学校教育 生きる力を育てる学校教育の充実

【事務事業名】

特別支援教育支援員配置事業

【目的・計画概要等】

宮古島市立幼稚園、小学校及び中学校に在籍し、障がい等の理由により特別な支援が必要な幼児・児童・生徒（以下「対象児童」という。）に対して、当該対象児童が自立した学校生活ができるように支援及び補助を行うために配置し、本市における特別支援教育の充実を図る。

【実施状況】

平成25年度は64名の対象児童に対し、26名の支援員を配置した。 配置園・校からの特別支援教育支援員配置事業実施報告書からは、特別支援教育支援員の支援の必要性及び有効性の報告と共に、 ① 支援員の増員 ② 支援員の勤務日数の増加 ③ 支援員の質の向上（研修の必要性等） の課題が指摘された。	決算額（財源内訳）	
	国・県	0 円
	地方債	0 円
	その他	0 円
	一般財源	31,960,290 円
	計	31,960,290 円

【担当者説明】

区分	説明	評価	担当者（主管課）評価・コメント
必要性	平成24年に行われた文科省の調査では、通常学級に6.5%支援の必要性がある児童生徒が在籍している。インクルーシブ教育が推進される今後は、さらなる拡充が必要となる。	A	総合評価：A（拡充） 特別支援教育支援員設置要綱により、特別支援教育支援員は医師から「発達障がい」であるという診断を受けた者、もしくは安全面・生活面で介助が必要な者にも配置している。医学的に障がい証明されている者、生活面・安全面に介助を要する者に市が支援することは極めて妥当な事である。 その結果、教員がクラス全体の指導に集中することができ、障がいのない児童・生徒にとっても間接的に支援を行っていることになる。ただ、有効性という点においては、「支援内容について十分に話し合う時間がない」「特別支援教育についての知識が不十分である」等の理由により改善が必要である。 支援員がケース会議や研修に参加するためにも勤務日を増加させ、更に有効な支援につなげたい。また、資格手当を発生させることにより、よりよい人材の確保が可能になり、効率性を向上させることができると考える。
効率性	特別支援教育支援員の日当は妥当である。また、次年度以降は研修や校内における支援会議への参加等を考慮し、長期休み中の勤務日数の増加が必要である。	A	
有効性	教員と支援についての十分な話し合いの時間、および研修参加の時間が確保できれば、更に有効な支援につながる。	C	

\* 評価及び総合評価（A=拡充 B=継続 C=改善 D=廃止 E=完了）

【内部評価】

障がいのある児童・生徒の自立や社会参加に向けた主体的な支援は必要である。児童・生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難又は克服するための適切な指導支援は必要であり、全教職員が一体となった取り組みを推進する必要がある。	総合評価 A (拡充)
--	-------------------

【外部評価】

今年度、沖縄県においても「障害のある人もない人も共に暮らしやすい社会づくり条例」が施行されています。行政はこれまでの努力目標から実行しなければいけない立場になったと思います。是非、他の事業との連携（人材育成特別推進事業や教育研究所運営事業等）も含め支援員のスキルアップをお願いしたい。	総合評価 A (拡充)
--	-------------------



宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名： 学校教育課

【主要施策】

I 学校教育 生きる力を育てる学校教育の充実

【事務事業名】

その日の学び振り返り研究事業

【目的・計画概要等】

児童一人一人の日々の学習の定着を図ることを目的とし、翌日の学習に意欲的に取り組ませるために、その日の学びの振り返りを行う。  
授業での学習支援員として、担任や指導方法工夫改善加配教員と連携し授業を実施する。また、放課後支援として、その日の学習内容を定着させるための補習指導を行う等、本市における学力向上の充実を図る。

【実施状況】

平成25年度は平一小学校、南小学校、東小学校の3校に支援員を配置し、その日の学び振り返り事業を実施した。 <b>【実践内容】</b> ○授業での支援 ・チームティーチングでT2として机間巡視しながら児童の実態を把握する ・つまづきのある児童への支援 ・教具（ワークシート、掲示用資料）の準備や作成 ・授業後のノート点検等 ○放課後の支援 ・その日の学習内容を定着させるため、支援が必要な児童への補習指導 ・授業と連動した家庭学習の仕方や内容の支援 ・適応問題で学習内容の理解度に応じた補習指導 ・個別指導のための教材・教具作成	決算額（財源内訳）	
	国・県	3,377,800 円
	地方債	0 円
	その他	0 円
	一般財源	0 円
	計	3,377,800 円

【担当者説明】

区分	説明	評価	担当者（主管課）評価・コメント
必要性	その日の授業だけでは理解できなかった内容をもう一度補習することで学習内容の習得につながり、本市の課題である学力向上につながっている。	A	総合評価：A（拡充）  日々の授業において担任との連携を図り、机間巡視を行うことにより学習内容の理解度や落ち込み等の児童の実態把握ができ、支援を行うことで学習意欲が高まる。 放課後支援では、その日に行った学習内容の定着が不十分な児童への個別指導を行うことにより、学習内容を定着させることで児童の自信につながる。 保護者へのアンケートからも、児童の学習意欲が向上したという意見が多数あり、家庭で児童と共に算数の問題に取り組む保護者が見られた。 本市における学力向上につながる取組として期待が大きい。
効率性	個に応じた指導を行うことにより学習意欲が高まり、問題が解けずすぐに諦めていた児童も積極的に問題に取り組む姿勢が見られた。	A	
有効性	支援が必要な児童に、その日の学習内容を確実に定着させることで、翌日の学習に意欲的に取り組むことができる。	A	

\*評価及び総合評価（A=拡充 B=継続 C=改善 D=廃止 E=完了）

【内部評価】

本事業は県の委託事業であり、児童一人ひとりの日々の学習の定着を図るとともに学習に意欲的に取り組ませるための事業であり、児童の学習内容の理解度等の実態把握ができ、支援を行うことで学力向上につながる事業であることから県とも連携しながら事業の継続受託ができるように積極的に取り組みすべきである。	総合評価 A (拡充)
--	-------------------

【外部評価】

県の事業ではあるが、学力向上を目指すためには必要なことだと考えます。担任一人ではどうしても手に余る所を補助員をつけることによりクラス全体の学力向上を計ることができると思います。	総合評価 A (拡充)
--	-------------------

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名： 学校教育課

【主要施策】

I 学校教育 生きる力を育てる学校教育の充実

【事務事業名】

学力向上対策事業

【目的・計画概要等】

宮古島市立各幼稚園、小・中学校の幼児・児童・生徒一人一人に確かな学力などの生きる力を育むことを目標に学校、家庭、地域との連携を基に、学力向上対策の事業を推進する。

【実施状況】

1. 宮古島市学力向上対策委員会及び実践成果報告会の実施 301,955円	決算額（財源内訳）	
2. 市単独標準学力等調査（4月実施） 基礎・基本の学習内容を中心に、児童・生徒の学力到達度を確かめ、 指導改善に役立てた。 2,726,512円	国・県	0 円
3. 学力向上対策補助金交付 幼稚園・小学校・中学校への補助金を交付することで、一人一人の 確かな学力を育て、校（園）内の体制づくりの確立に役立てた。 また、確かな学力の定着及び保護者負担の軽減を目的に、各種検定料 の補助を行った。 7,434,850円	地方債	0 円
4. 総合的な学習支援補助金交付 2,420,000円	その他	0 円
5. 国・県・市研究指定校補助金交付 900,000円 （平良第一小学校、北小学校、鏡原中学校）	一般財源	13,783,317 円
	計	13,783,317 円

【担当者説明】

区分	説明	評価	担当者（主管課）評価・コメント
必要性	標準学力検査等による児童生徒の実態調査をもとに、各学校の学力向上対策補助金の活用により本市の課題である学力向上推進のためにも必要である。	A	総合評価：A（拡充） 標準学力調査等の諸検査を行うことにより、児童生徒の実態や各学校における課題が把握できる。それを基に、各学校においては学力向上のための学習指導を行っている。 各種検定補助を行うことで、多くの児童生徒が受験し、学力向上につながった。 さらに、研究指定校においては研究の成果を各学校へ還元することで、宮古島市の喫緊の課題である学力向上につながるものとする。
効率性	今年度の事業を継続し、小中学校における課題への対応を図ることで、各学校の学力向上推進の充実につながる。	A	
有効性	現事業を効果的に推進することで、全国学力・学習状況調査において、全国平均正答率と6P以内にする目標が達成できる。	A	

\*評価及び総合評価（A=拡充 B=継続 C=改善 D=廃止 E=完了）

【内部評価】

近年、核家族化や少子高齢化、都市化の進展による人間関係の希薄化が見られ、自ら学ぶ意欲を育て、学力の向上を目指すとともに、豊かな表現力とねばり強さをもつ児童・生徒を育成するためには、学校、地域社会、家庭間の連携を充実させるとともに、各家庭での教育力の向上が求められる。本市の重要課題は学力向上であり、教育委員会としても更に拡充し事業の充実を図るべきと考える。そのためにも、学習状況調査分析結果の教育課程編成への活かし方や、補助金等の計画的な予算編成も含めて事業推進の充実に向けた取り組みの工夫が必要である。	総合評価 A (拡充)
--	-------------------

【外部評価】

各種検定に関しては児童生徒が興味（楽しんで）を持って受けるような雰囲気づくりに努めてほしい。また、各研究校とその他の学校との連絡を密にし研究発表時には他の学校の先生もこぞって参加し活発な意見交換ができるようお願いしたい。	総合評価 A (拡充)
--	-------------------

# 宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名： 学校教育課

## 【主要施策】

I 学校教育 3. 教職員の資質向上

## 【事務事業名】

教育研究所運営事業

## 【目的・計画概要等】

教育に関する専門的・技術的事項の研究及び教育関係職員の研修を行う(宮古島市立教育研究所設置条例第1条)宮古島市立教育研究所は、生涯学習への視点に立って、学校教育、社会教育、家庭教育の直面している課題を積極的に取り上げ、教育実践に結びついた教育活動の推進に寄与する。  
 (1) 職員は自らの資質を高めるように努力し、協働体制のもと、子ども・学校・保護者への援助を行う。  
 (2) 本市の現状を把握し、教育現場のニーズにあった援助を行う。  
 (3) 各教育機関との連携を図り、効果的な援助を行う。

## 【実施状況】

1. 調査・研究 ① 現在行われている調査の結果分析(全国学力・学習状況調査、県学力到達度調査等) 2. 研修 ① 長期研究教員…後期(幼稚園・小学校国語科・中学校道徳) ② 研究所主催の研修会 ③ 宮古教育事務所の研修会との連携(初任者研修、5年・10年経験者研修) ④ 琉球大学教育学部との連携による研修会 ⑤ 文科省調査官招聘事業の推進 3. 情報・広報 ① ホームページを通して研究情報を発信し、情報の共有化 ② 研究教員報告書、まていだ教室実践報告書を刊行し、教育関係者への提供 ③ 教育相談室、まていだ教室はリーフレットを作成及び周知 4. 教育相談 ① 来所相談、電話相談、学校・家庭訪問相談等の実施 5. 適応指導教室 ① 不登校及び発達障害のある児童・生徒への対応	決算額(財源内訳)										
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">国・県</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">0 円</td> </tr> <tr> <td>地方債</td> <td style="text-align: right;">0 円</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">0 円</td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td style="text-align: right;">7,299,596 円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td style="text-align: right;">7,299,596 円</td> </tr> </table>	国・県	0 円	地方債	0 円	その他	0 円	一般財源	7,299,596 円	計	7,299,596 円
国・県	0 円										
地方債	0 円										
その他	0 円										
一般財源	7,299,596 円										
計	7,299,596 円										

## 【担当者説明】

区分	説明	評価	担当者(主管課)評価・コメント
必要性	教育に関する専門的・技術的事項の研究及び教育関係職員の研修を行うため、講師招聘、長期研究教員の研修環境の整備や各学校及び各教科研究会への支援は、学力向上を推進する基礎をなすものであり、教員の資質向上を図ることは市の基本政策方針を進める上での重要事項である。	A	総合評価：B(継続) 本市においては、離島という特性から、よりレベルの高い研修を受ける機会に恵まれていないのが実情である。その意味において、文部科学省調査官招聘事業や琉球大学連携推進事業における講師招聘は、研修会の質を高め、教育に関する専門的・技術的事項の向上に貢献しており、教員の指導力向上や資質の向上に繋がっている。また、全国学力・学習状況調査の結果の推移からも徐々にその効果が現れてきている。 学校教育においては、年々、いじめや不登校等へのきめ細やかな対応への重要性が高まってきているが、学校及び学級担任のみならず、家庭教育への支援も視野に入れた行政側(市)の支援が、「生きる力を育てる学校教育の充実」という市の基本政策を推し進めていく上でも重要である。そのために、適応指導教室や教育相談員による不登校児への対応・支援は、今後も維持継続を図っていく必要がある。
効率性	文科省や大学からの講師招聘については、管内小中学校への参加呼びかけにより、教員の指導力及び資質力向上に大きく寄与しているが、業務効率化・改善化の観点から学校や他の機関の行事との連絡・調整が必要である。	B	
有効性	講師招聘及び派遣支援の研修会や教科研究会への支援、体験活動、不登校児への対応及び支援など、多様な教育活動の展開は、教師の専門性を高め、教師の指導力向上や児童生徒の学力等の向上に繋がりがつある。	A	

\*評価及び総合評価 (A=拡充 B=継続 C=改善 D=廃止 E=完了)

【内部評価】

研究所の設置目的が教育に関する専門的・技術的事項の研究及び教育関係職員の研修の充実・強化を目的に設置されており、離島という特性からレベルの高い研修の機会に恵まれていない中において、研究所の役割は非常に大きいと考える。各種研修会の開催や各関係機関からの招聘事業等教育現場のニーズに対応した研修の企画等が求められております。これまでも多くの研修会開催により、教職員の資質向上に貢献されており、今後とも積極的な研修会等の企画・実施に努める。	総合評価
	A (拡充)

【外部評価】

先生方のスキルアップや宮古島の教育の現状調査等いろいろな課題に取り組んでいると評価します。できれば、教育研究所が1つの目標をたて各学校の課題と擦り合わせし、長期研究員となった先生方との間で同じ課題等であれば連携が取れるようなことはできないか。	総合評価
	A (拡充)

# 宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名： 教育総務課

## 【主要施策】

I 学校教育 生きる力を育てる学校教育の充実

## 【事務事業名】

教育の日市民大会「宮古島の教育を語る市民大会」

## 【目的・計画概要等】

教育に対する市民の関心と理解を一層深めると共に、家庭、学校及び地域社会の連携の下に市民全体で教育に関する取り組みを推進し、もって本市教育の充実及び発展を図るため、宮古島市教育の日を定める要綱により2月の第3日曜日に、教育の日について啓発を行うと共に、教育の日にふさわしい事業として「宮古島の教育を語る市民大会」を開催する。

## 【実施状況】

宮古島の教育を語る市民大会 ・教育の日表彰（小学生1名、中学生1名、高校生1名、社会人2名） 表彰者は次年度の宮古島市夢実現助成事業の対象者 ・教育の日標語（応募総数111点 小学校21、中学校12、高校一般78） 最優秀各1点の合計3点、優秀各2点の合計6点が入賞 ・実践報告「本市の学力向上対策について」 学校教育課指導主事 ・基調講演「生きる力を育む」 ・公開フリートーク「夢へのチャレンジ、宮古への想い」	決算額（財源内訳）	
	国・県	円
	地方債	円
	その他	301,955 円
	一般財源	円
	計	301,955 円

## 【担当者説明】

区分	説明	評価	担当者（主管課）評価・コメント
必要性	地域社会への啓発が、人材の育成と生涯学習の振興に寄与する。	A	総合評価：C（改善）  本事業は、人材育成と生きがいある生涯学習社会の実現を目指し、内外に広くPRすることで地域社会へ啓発を促す事業である。 継続して実施することで宮古島の発展を推進していくものとする。現状は、一般参加が少なく、効率・有効性を高めるために改善が必要である。 教育の日表彰については、より重みのある賞として、表彰のあり方を工夫する必要がある。
効率性	啓発事業として、時期対象とも適切であり、相当の効果を期待できる。	C	
有効性	教育に対する関心は高まり、継続実施により理解を深めている。	C	

\* 評価及び総合評価（A=拡充 B=継続 C=改善 D=廃止 E=完了）

## 【内部評価】

本事業は保護者及び地域社会の啓発を促す事業であり、多くの方々の参加の下、事業の目的を達成できるものであり、広く市民の大会として新たな企画が必要と考える。教育に対する市民の関心は高まっており、教育の日市民大会をとおして本市の教育施策の充実に努める。	総合評価  C (改善)
---	-----------------------

## 【外部評価】

一年間の事業の振り返りとして必要性を感じるがもっと一般市民も興味を持つような展開はできないか。学力向上が計られているなかもっと「宮古島はすごい」と言わせるような市民大会を期待する。	総合評価  B (継続)
--	-----------------------

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名： 教育総務課

【主要施策】

I 学校教育 生きる力を育てる学校教育の充実 / II 社会教育 みんなで学ぶ生涯学習

【事務事業名】

宮古島市夢実現助成事業

【目的・計画概要等】

【目的】

宮古島の児童生徒の人材育成及び教育指導者等の資質向上を図ることを目的に、宮古島市教育の日表彰規程に基づき表彰された者を対象に助成を行う。

【計画概要等】

宮古島市教育の日表彰規程に基づき表彰された者を対象に助成を行う。（小学生3名、高校生1名学校関係職員1名、社会教育関係1名と、児童生徒引率の保護者各1名は助成対象）

【実施状況】

		決算額（財源内訳）	
○小学生及び保護者（実施時中学生）	839,550 円	国・県	円
○中学生及び保護者（実施時高校生）	0 円		
○高校生及び保護者	216,222 円	地方債	円
○学校関係職員	0 円		
○社会教育関係	240,000 円	その他	円
	1,295,772 円		
		一般財源	1,295,772 円
		計	1,295,772 円

【担当者説明】

区分	説明	評価	担当者（主管課）評価・コメント
必要性	地域社会の発展は教育の充実、将来を担う人材の育成にある。	B	総合評価：C（改善） 助成事業を実施することで、研修の機会が与えられ、人材育成と教育指導者の資質向上につながっていく。事業の周知を図り、継続実施による更なる事業充実が、本市の教育の発展に寄与するものと考えられる。人材育成の観点から、効果的、効率的な事業内容になるよう研修内容を工夫していく必要がある。
効率性	人材育成及び教育指導者の資質向上につながっている。	C	
有効性	事業の認知により、更なる効果が期待できる。	C	

\* 評価及び総合評価（A=拡充 B=継続 C=改善 D=廃止 E=完了）

【内部評価】

本助成事業は、スタートして3年目を迎えており改善・工夫を行いながら実施すべきと考える。教育の日の表彰推薦が少ない状況で、広く周知することにより推薦も増えるのではと考える。今後は実施後の報告のあり方等についても検討すべきである。	総合評価 C (改善)
---	-------------------

【外部評価】

本事業は、人材の発掘や子どもたちの意欲を引き出し、研究や目標を立てて努力する人間育成に貢献する大切な事業である。現在の推薦応募者が少ない状況は各学校や関係者、市民にまだ浸透していない面も考えられる。本市のすばらしい施策及び事業目的達成のため広報及び実施工夫の具体化吟味し改善が必要だと思われる。	総合評価 C (改善)
---	-------------------

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：生涯学習振興課

【主要施策】

Ⅱ 社会教育 みんなで学ぶ生涯学習

【事務事業名】

生涯学習フェスティバル事業

【目的・計画概要等】

【目的】

広く市民に対し、学習活動の成果発表の場や学習情報を提供することにより、市民一人ひとりの学習意欲を高めるとともに学習活動への参加を促進し「学び育てる 文化のまち みゃーく」をテーマに生涯学習の一層の振興を図る。

【計画概要】

- ①公民館利用者や社会教育団体などによる学習活動の展示や舞台発表を行い、生涯学習の普及・啓発活動を行う。
- ②来場者が楽しみながら生涯学習に対しての理解を深められるよう、体験・実演・即売コーナーを設置する。
- ③社会教育活動に対し功績のあった個人、団体を表彰する。
- ④生涯学習に関するテーマで記念講演を行う。

予算額： 674,000円

【実施状況】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・開催日：平成25年11月16日～17日 開催場所：宮古島市中央公民館</li> <li>・社会教育功労表彰： 1人</li> <li>・舞台発表：社会教育団体 11団体・146名／公民館関係：18団体 188名</li> <li>・野外ステージ：8グループ 40人</li> <li>・体験・実演コーナー：理科実験・ロボット体験・キッズゲーム・読み聞かせ・野外ステージ</li> <li>・体験工芸村・軽スポーツ・花づくり公開講座</li> <li>・講演：沖縄県文化振興会のアドバイザー 平田大一 「文化でおこす、人と地域と未来のはなし」</li> </ul>	決算額（財源内訳）	
	国・県	円
	地方債	円
	その他	円
	一般財源	400,588 円
	計	400,588 円

【担当者説明】

区分	説明	評価	担当者（主管課）評価・コメント
必要性	行政や各団体が主催する講座等は、生涯学習の場として重要な位置を占め市民の関心も高い。したがって、その総体的な活動発表の場として当事業は必要である。	B	総合評価：B（継続）  近年は、自分の趣味やライフワークとして、新しいことを学んだり自らを高めることが出来る「生涯学習」に対する関心が高まっている。本市においても各種教室や行政の講座等の開催が盛んであるが、実際に活動している方々は、まだ少数派である。この事業は、多くの市民に生涯学習活動を紹介するよい機会となっており、今後、事業の展開・拡充を図ることが重要だと考える。
効率性	来場者の動員増を図り、費用対効果を高めることが課題だったが、今回は特に講演会に大量動員でき、目標が達成できた。	B	
有効性	創意工夫された活動展や舞台発表、様々な実演等により、来場者は生涯学習活動に対する理解を深めることが出来た。	B	

\*評価及び総合評価（A＝拡充 B＝継続 C＝改善 D＝廃止 E＝完了）

【内部評価】

生涯学習の成果を発表する唯一の機会であり、記念講演や体験・実演コーナー、舞台発表などを行い、相互の交流を深めている。 今後は、市民のニーズに沿った講座や体験・実演コーナーなどの充実を図るとともに、さらなる生涯学習の普及・啓発活動を展開する必要がある。	総合評価  B （継続）
--	-----------------------

【外部評価】

他団体交流の場として、とても良い事業だと思います。小・中・高の生徒達から地域の人達の発表や体験コーナー等を一同に開催することは「つながり」を生み、育む場として広く開催して頂きたいと思います。講演者や舞台発表等、出来る限り地元の人達（地元出身者含む）を活用して頂きたいと思います。

総合評価

A  
(拡充)



# 宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名： 生涯学習振興課

## 【主要施策】

Ⅱ 社会教育 みんなで学ぶ生涯学習

## 【事務事業名】

海外ホームステイ補助金

## 【目的・計画概要等】

### 【目的】

宮古島市内の生徒を海外に派遣し広く海外での研修体験を通して、将来国際人として活躍すべく感性と教養を育てる。

### 【計画概要】

- ①オアフ島での英語集中学習、平和学習、県人会訪問
  - ②マウイ島でホストファミリー宅による異文化体験
  - ③マウイ島でのスクール体験
  - ④マウイ島での野外研修と県人会との交流
- 予算額：1,720,000円

## 【実施状況】

・派遣期間：平成25年8月18日～31日 15日間 ・派遣先：アメリカ合衆国ハワイ州オアフ島・マウイ島 ・派遣人数：6人 今回のプログラムは、ハワイマウイ島で現地の県系人との親交を深め、双方の高校生がホームステイをしながら学校へ通い、様々な体験学習を行いました。また、ハワイ東海大学、ハワイ沖縄連合、マウイ沖縄県人会などを表敬訪問し、みなさんと意見交換会を行うなどハワイが世界的な観光地となっていることについても学びました。	決算額（財源内訳）	
	国・県	円
	地方債	円
	その他	1,686,000 円
	一般財源	円
	計	1,686,000 円

## 【担当者説明】

区 分	説 明	評 価	担当者（主管課）評価・コメント
必要性	将来の宮古島を担う青少年が、姉妹都市マウイ島での異文化、英語学習、スクール体験する。	B	総合評価：B（継続） この貴重な経験を今後生かし、視野を広げ、世界に貢献できる人間に成長し、「現地の方たちと積極的にコミュニケーションをはかり、質の高い英語を学ぶことで人間的にも大きく成長する」よい機会となり、今後も重要だと考える。
効率性	英語力を身に付ける、宮古の魅力を紹介して、ハワイの良いところを学び、いろいろな経験を積む。	B	
有効性	グローバル社会の中で英語は必要なスキル、このホームステイで多くのことを学び将来、宮古島市を背負う人材を図る。	B	

\* 評価及び総合評価（A＝拡充 B＝継続 C＝改善 D＝廃止 E＝完了）

## 【内部評価】

外国の異文化を体験することは、国際化する社会に対応できる人材育成に非常に重要であり、今後も継続する必要がある。	総合評価 B （継続）
---	-------------------

## 【外部評価】

グローバル社会において語学教育、特に英語教育においては、宮古島市は他地区より遅れていると感じています。このようなホームステイ交流事業は、広く多くの子ども達に体験させる必要があると思います。選考方法の1つとして、英語の成績があると思いますが、成績よりも感謝の心があり、情熱がある生徒も選んで頂きたい。研修費を全額負担出来るように、多方面から考え創意工夫して頂きたい。（例として市民より寄付を募り、グローバル人材育成基金等を設置して対応することも考えてはどうか）	総合評価 A （拡充）
---	-------------------

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名： 中央公民館

【主要施策】

Ⅱ 社会教育 みんなで学ぶ生涯学習

【事務事業名】

公民館管理運営事業

【目的・計画概要等】

目的:市民の為に社会的要請のある学習ニーズに対応した事業を企画実践するとともに、各種講座や研修会、講演会等の学習の場を提供し、人づくり、地域づくりに貢献する拠点としての社会教育(生涯学習)施設とする。

計画概要等：中央-19講座、城辺-14講座、上野-12講座、下地-11講座、伊良部-7講座、久松-8講座、西原-8講座、下崎-7講座の8公民館で86の講座開設を予定した。

- 中央公民館 花作り講座、男性料理講座、島講座、夏休み陶芸教室、ホームクッキング、パソコン講座
- 城辺公民館 パソコン講座、書道教室、三線講座、夏休み児童絵画教室、手芸講座、エアロビクス講座
- 上野公民館 三線講座、演芸講座、夏休み子ども陶芸講座、えてがみ講座、英会話講座等
- 下地公民館 三線講座、琉球舞踊講座、茶道講座、パソコン講座、手芸講座、夏休み親子陶芸講座等
- 伊良部公民館 マングローブ観察講座、夏休みものづくり講座、三線講座、パソコン講座等
- 久松公民館 おやつ作り講座、琉球舞踊講座、夏休み子ども三線講座、エコクラフト講座等
- 西原公民館 サマー工作講座、サマー絵画講座、琉球舞踊講座、エアロビクス講座、英会話講座等
- 下崎公民館 リサイクル講座、パッチワーク講座、琉球舞踊講座、お菓子作り講座、日本舞踊講座等

【実施状況】

平成25年度は、8公民館で85講座・教室を開設し、延利用人数8,225名、サークル活動は、53団体、延利用人数23,711名、その他一般利用延人数は、8公民館で86,069名、合計利用人数は、118,005名です。 なお、その他の事業として生涯学習フェスタ事業 155千円(中央)、博愛の日展示事業 124千円(上野)、白川町海山交流事業 900千円、台湾国際交流事業 910千円(下地)、板倉町交流事業補助金等 1,120千円(城辺)を実施した。 ※決算額(その他)公民館使用料 3,788千円、対米請求 966千円、県市町村振興協会 1,809千円	決算額(財源内訳)	
	国・県	0 円
	地方債	0 円
	その他	6,564,093 円
	一般財源	66,215,120 円
	計	72,779,213 円

【担当者説明】

区分	説明	評価	担当者(主管課)評価・コメント
必要性	地域に根付いた公民館であり、市民の教養の向上、健康の増進、地域交流の場としてニーズは高い。	B	総合評価：B(継続) 各公民館とも、生涯学習の拠点として市民のニーズに応じた各種講座、教室、サークル活動の充実に努め、今後も質の高い公民館講座の拡充を計画し、新中央公民館へ活動の場を移管するよう努めていきたい。
効率性	公民館主催講座の現況予算での活動としては、ベストであるが、講座担当職員の負担が大きい。	C	
有効性	講座から自主的にサークルを結成し、学習の継続を続けているので、効果は得られている。	B	

\*評価及び総合評価 (A=拡充 B=継続 C=改善 D=廃止 E=完了)

【内部評価】

生涯学習の拠点として各公民館は重要な施設であり、各公民館で開催される各種講座や教室、サークル活動は、地域のニーズに対応しており、市民にも好評である。今後も各公民館の果たす役割は大きく、地域の生涯学習の場として更なる講座内容の充実を図るとともに、新中央公民館の開館に向けて、市民へのサービス向上及び利便性を図る必要がある。	総合評価 B (継続)
--	-------------------

【外部評価】

目的にもあるように、現在8公民館を地域の拠点として活用している。今後さらにコミュニティー施設等にも拡充して頂きたい。市民の為に、新中央公民館の計画に対し、縦、横の「つながり」を積極的に取り、斜めからも見ながら多くの意見を聞き、創意工夫をして素晴らしい施設を計画し、完成させていただきたい。また、講座担当職員の負担も多方面から工夫し減らす努力をしていただきたい。

総合評価

A  
(拡充)

# 宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名： 平良図書館

## 【主要施策】

Ⅱ 社会教育 みんなで学ぶ生涯学習

## 【事務事業名】

図書館サービスの充実・行事の充実

## 【目的・計画概要等】

1. 図書館サービスの充実  
 図書館資料内容とその効用を市民に周知し、利用を促す活動を重点的に進めてきた結果、毎年度好調な伸びを示している。基本サービスである貸出業務や資料管理以外のレファレンス（調査）やリクエスト（収蔵外資料提供）サービスも徹底し、平成25年度では、貸出冊数が約187,000冊に達した。単純に市民割した場合、1人当たり3.4冊の利用となり、県内自治体平均の4.1冊に近づきつつある。図書館サービスの価値が市民に着実に認識されてきたことの表れである。平成25年度は、市民の生活形態に沿った移動図書館の派遣に心掛けた。新宮古病院・公設市場に加え、私立幼稚園の送迎時間にステーションを設け、ファミリー読書の推進に貢献した。また、市街地の市立幼稚園へ学級文庫の設置を働きかけ、移動図書館車を利用した配本サービスも開始した。市・県・地域が主催するイベントへも臨時ステーションを設けサービスと利用拡大に努力した。新図書館開館に向け、更に創意工夫しサービスと利用向上を目指したい。

2. 図書館行事の充実

①おはなし会（平良・城辺館）  
 時事、季節、郷土（民話）等を題材に幅広い資料と技法で、早期の読書習慣の確立と環境整備をすることを目標に定期的に開催。低年齢時から図書館を生活環境の一部として親しませ、認識させる。

②学級招待（平良館）  
 園児・児童を招いて館内施設・資料の利用方法や紹介を行い、ボランティア協力によりミニおはなし会を実施し図書館に親しみをもたせる。保育者・教職員に資料を紹介し団体貸出による学級文庫設置を奨励し、園・校内における読書環境整備を側面から支援する。

③出張おはなし会（平良館）  
 早期読書習慣確立と幅広い資料の紹介をする。ボランティア協力の下、依頼に応じた題材で実施する。

④納涼おばけまつり  
 夏休み期間中に、夜間開催し怪談中心のおはなし会を実施した。ボランティア・職員によるお化けの変装など工夫をこらしたイベントで親子連れを楽しませた。みらい号による関連本の貸出サービスも実施。

⑤ぬいぐるみお泊まり会（平良館）  
 米国の図書館から発したイベントで、子ども達の大切な「ぬいぐるみ」を館内で1泊させその様子を写真撮影し、プレゼントする。ぬいぐるみが絵本を選書し子ども達に利用を促す。

⑥こどもシアター（平良館） おはなしひろば（城辺館）  
 こども読書週間にちなみ実施される。広報拡大と多彩な演目で多数の来館があり、普段図書館利用のない世帯に資料紹介と利用を促す機会となる。

⑦季節行事（平良館）  
 たなばたまつり、クリスマス会、節分まつりなど季節行事を通して、その由来やおはなしを紹介する。職員によるサンタさんや赤鬼・青鬼などのアトラクションで大盛況を博している。

⑧サマースクール（城辺館）  
 夏休み期間中、小学生を対象に専任講師を招き感想画指導を実施する。低・高学年それぞれ15人を定員とする。

⑨平和資料展（北分館・城辺館）  
 毎年6月に「慰霊の日」にちなみ沖縄戦関連資料の特別設置と貸出を実施する。

⑩郷土史講座（北分館）  
 地元郷土史研究会による手作り講座。各会員がそれぞれのテーマに沿って講義を行う。

## 【実施状況】

	平良図書館		北分館		城辺図書館		決算額（財源内訳）	
	H24	H25	H24	H25	H24	H25	国・県	円
登録率	35.5	38.7	※3館合計の登録率				国・県	円
貸出冊数	130,351	147,553	2,257	3,544	35,824	35,860	地方債	円
利用者数	49,435	54,693	8,044	8,699	15,991	15,542	その他	円
レファレンス数	1,518	1,348	29	15	374	428		
リクエスト数	275	276	5	3	89	46		

上記数値で、平良図書館と北分館が好調な伸びを示している。特に平良図書館は、資料回転数（貸出冊数/蔵書数）が、県内トップクラスで利用者のニーズを的確に捉えた選書であることが証明された。北分館も県内では希少な郷土資料専門館として利用が広まりつつある。この好調さを更に発展させたい。	一般財源	126,207,534	円
	計	126,207,534	円

【担当者説明】

区分	説明	評価	担当者（主管課）評価・コメント
必要性	市民の教育（養）向上、調査研究に資（供）する機関であり、館の活動は年を重ねる毎発展している。しかし、過去長期間低迷していた影響で未だ県平均に及ばない実情にある。市民生活・学力向上のため更なる拡大と充実が必要である。	A	総合評価：A（拡充） 平成25年度の図書館登録者数は、21,267人。3館のシステム統一がなされた平成23年度末の18,070人から3,197人の増加となり、単純に住民割した場合約6%が新規登録されたことになる。貸出冊数も152,194冊から186,957冊と34,763冊増加した。県内類似市では、ここ数年登録者数や貸出冊数が横ばい状態にあることを鑑みれば、非常に好調な運営と判断している。左記（必要性欄）でも述べたとおり、過去長期的に低迷していた図書館運営を県平均まで押し上げるのは容易ではないが、本3館の運営は毎年度その目標数値を大きく上回っており、可能な範囲に到達している。更なる努力を重ねたい。また、少子高齢化が大きな社会問題になっている現代において、生涯学習が果たすべき役割は、年々その規模が拡大している。特に、本市のように住民年齢層の約3割が60歳以上を占める自治体では、その整備と充実が急がれる。そこで、平成23年度から平成25年度の高齢者の図書館利用者数を比較した場合、平成23年度では、3,726人に対し平成25年度は6,122人と大きな伸びを示しており、高齢者の生涯学習に図書館利用が浸透してきたと判断する。今後も世代別の資料ニーズを的確に分析・把握し、益々発展させたい。他の年齢層では、30代から50代の増加が大きいが反面、16歳から20代後半の利用伸びが小さいなど、細かな改善点を丁寧に対応したい。職員の資質の向上を図り、市民協働の「地域に根ざした開かれた図書館」「市民に役立つ図書館」を目指す。
効率性	平良図書館は、資料の回転数値が県内第2位を誇り、効率の良い活動を展開している。図書館のない区域や遠隔地においては、移動図書館車での巡回サービスをおこなっている。（みらい号・夢の光号）北分館は郷土史収集、保管を主とし教育と研究調査が対象となるため、地域（郷土）史研究者や学校教育機関との連携が求められる。貴重資料の電子化などの多角的な閲覧方法で効率性の向上を目指す。	A	
有効性	保育・幼稚園等で学級文庫設置を奨励し、新鮮な資料を効率的に配送し支援している。市民の生活形態に即応した移動図書館車のステーションにより資料を提供し、各種図書館行事を通じた読書環境整備・習慣化の支援を図り、市民の要求する情報を提供することで、市民生活向上に効果をもたらしている。	A	

\* 評価及び総合評価（A=拡充 B=継続 C=改善 D=廃止 E=完了）

【内部評価】

図書館の利用者数は、年々増加傾向にあり、図書館の地域に果たす役割は非常に大きいと考えられる。今後は、市民のニーズに沿った資料の所蔵を図るとともに、新図書館開館に向けて、市民へのサービス向上と利用拡大に努めていかなければならない。	総合評価
	A （拡充）

【外部評価】

とても理想的な管理・運営を行っていると思います。その結果、利用者は全体で増えている。いろんな課題に対しても、創意工夫した後が見え、更に創意工夫したサービスと利用向上を目指していただきたい。	総合評価
新図書館計画に対して、縦、横の「つながり」を積極的に取り、斜めからも見ながら、多くの意見を聞き、創意工夫をして素晴らしい施設を計画し、完成させていただきたい。	A （拡充）

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名： 文化ホール

【主要施策】

IV【青少年の健全育成】

【事務事業名】

宮古島市こども劇団設立事業

【目的・計画概要等】

(目的)

演劇を通して児童生徒の人格形成を図ることで、他者との関わりや自己を客観視する力、社会性を理解する力などを身につける。また、内在している潜在力を引き出せるよう支援していくことで、子どもたちの心の成長に寄与する。

(計画概要)

1. 毎週日曜日の稽古（ボイス・ダンストレーニング／琉舞／演劇自主稽古）
2. 月一回、演劇専門家による指導
3. 活動の成果発表

【実施状況】

オリジナル創作劇「はしり星にのって」初回公演（平成26年1月）	決算額（財源内訳）	
	国・県	11,554,000 円
	地方債	円
	その他	円
	一般財源	2,889,000 円
	計	14,443,000 円

【担当者説明】

区分	説明	評価	担当者（主管課）評価・コメント
必要性	本格的な演劇人の指導により、質の高い表現力を身につけることは他に類を見ない有効な取組である。	A	総合評価：A（拡充） 物語の内容が、宮古島の歴史やアイデンティティーを如実に表現していることから、足下を見つめ直すキッカケとなり、郷土を愛することの重要性を訴える事が出来た。加えて、劇団員は自ら潜在能力を引き出し、表現の楽しさを実感できている。また、オリジナル劇を鑑賞した方が、島で生まれたことを誇りに思うなどと評価している。事業展開としては一定の成果をあげられた。
効率性	演劇の基礎作りとして妥当であり、継続した支援が求められる。	B	
有効性	演劇で宮古島をアピールすることは、市民の共感を得ることができ、島の特性などを伝えるのに有効である。	A	

\* 評価及び総合評価（A=拡充 B=継続 C=改善 D=廃止 E=完了）

【内部評価】

演劇を通して児童生徒の人格形成を図ることを目的に設立された宮古島市こども劇団は、宮古島で初めての公演が行われ、市民からも好評を得ている。 今後は、東京での公演も企画されており、さらなる拡充が望まれる。	総合評価 A (拡充)
---	-------------------

【外部評価】

報告書では今後のことが心配でしたが、ヒアリングの中で、設立当初から平成27年度には任意団体に移行し、市役所の手を離れる。今後は、宮古島市民の宝として多くの市民から物心両面の支援を受け、島の魅力を学び、それを多くの人々に発信することで島をもっと知ってもらい、団員一人ひとりの成長を願っている。もっと子ども劇団をアピールし、団員増に努力して頂きたい。	総合評価 A (拡充)
---	-------------------

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名： 市民スポーツ課

【主要施策】

Ⅲ スポーツ振興 スポーツアイランドの確立

【事務事業名】

スポーツマネジメントプラン策定事業

【目的・計画概要等】

スポーツを柱とした観光振興を推進するため、スポーツコンベンションの推進、スポーツ関連ビジネスの創出、スポーツ産業に係る人材育成、既存ストック施設の有効活用及び整備計画について調査・分析を行い、取り組むべき最適な施策とその手法を明らかにした総合的な整備計画を策定する。

【実施状況】

島内外の有識者（18名）で構成される「宮古島市スポーツマネジメントプラン検討委員会」を設置し、3回の検討委員会を開催しプランを策定した。 プラン策定にあたっては、委員会資料として市民2,000名（無作為抽出）を対象に「市民アンケート調査」、公共スポーツ施設の利用者を対象に「施設利用者アンケート調査」、また、スポーツ関連団体を対象に「スポーツ団体アンケート調査」等を行った。	決算額（財源内訳）	
	国・県	4,620,000 円
	地方債	円
	その他	円
	一般財源	1,155,000 円
	計	5,775,000 円

【担当者説明】

区分	説明	評価	担当者（主管課）評価・コメント
必要性	スポーツの活用による観光振興を図るために「施設の有効活用」、「人材育成」が重要となっていくことから、その方向性を示したプランの策定は必要。	E	総合評価：E（完了） スポーツを活用した観光振興及び地域活性化につながる計画として平成25年度に策定。 近年、プロ野球キャンプの他、自主トレーニングで訪れるトップアスリートも増えてきていることから、今後、同プランに基づき施設の整備やスポーツ人材の育成を効率的に進めていかなければならない。
効率性	プランに基づいて施設の整備やスポーツ活動全般を支援する環境づくりを効率的に進めていく必要がある。	E	
有効性	特定の競技に特化した拠点施設の形成、また、スポーツ振興のためのエリアを設定することにより、スポーツを活用した観光振興を図っていく。	E	

\* 評価及び総合評価（A=拡充 B=継続 C=改善 D=廃止 E=完了）

【内部評価】

スポーツ施設の有効活用や人材育成の方向性、施設の整備計画や環境作りを設定し、スポーツ振興に寄与するためにスポーツマネジメントプランが策定された。 今後は、スポーツマネジメントプランを有効に活用しながら、宮古島市のスポーツの振興に努めていく必要がある。	総合評価 E （完了）
--	-------------------

【外部評価】

本事業は、今回プラン策定が出来上がったので完了であるが、今後、このプランをもとにスポーツ振興、スポーツアイランド宮古島の確立を目指し、8年計画で実施する大綱となる。施設整備については、財政と現施設の状況を多方面から検討し、最善を尽くして頂きたい。とても良いプランを策定したと思いますが、市民への公開がまだなので早急に対応して頂きたい。	総合評価 E （完了）
---	-------------------

# 宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名： 生涯学習振興課

## 【主要施策】

Ⅶ 文化の振興 豊かな感性を育む郷土文化の保存・継承をめざして

## 【事務事業名】

市埋蔵文化財公開活用事業

## 【目的・計画概要等】

これまでに実施された発掘調査等における出土遺物など、収蔵資料の再整理（再分類・再収納・復元作業など）を行い、これまでの紙台帳からデータベース化へ管理方法を変換することで、収蔵資料の活用の利便性を高める作業を実施する。

平成25年度においては、具体的には、住屋遺跡、外間遺跡、尻川遺跡の再整理を行った。

遺物は、近年の研究成果を踏まえた分類案を用いて再分類を行い、収蔵コンテナ毎の収納遺物の台帳整理とデータベース化を実施する。

また、破片資料の復元作業をすすめ、展示資料としての再整理を進めていく。その他、報告書のビジュアル版化のための写真撮影を行う。

## 【実施状況】

○整理済み資料（遺跡別） ・住屋遺跡 ・外間遺跡 ・尻並遺跡	決算額（財源内訳）	
	国・県	3,421,000 円
	地方債	100,000 円
	その他	0 円
	一般財源	757,000 円
	計	4,278,000 円

## 【担当者説明】

区分	説明	評価	担当者（主管課）評価・コメント
必要性	事業対象の整理資料は、開発に伴う記録保存調査による出土品であり、今後本市における歴史を伝達するうえでは必要不可欠である。	A	総合評価：A（拡充）  本事業で取り扱う資料が出土した遺跡のほとんどは、開発行為による記録保存調査の対象となったため現在は消滅した物件がほとんどです。これらの遺跡が後世に伝えるものは、地域の歴史文化のみならず、そこで生活をした人々の叡智であり、今日私たちが営む生活の基盤となっていると認識しています。これまで収蔵庫にて保管されるのみであった文化財資料を、広く学校教育や学術研究に還元し公開活用することは、市民ひとりひとりが自らのアイデンティティを再認識することができる機会になると考え、今後は事業拡充を検討しております。
効率性	未整理の資料のデータベース化は、学校教育活用資料や広く学術研究に資することができる。	A	
有効性	倉庫に保管されたままだった資料の展示など、市民の目に触れる機会が増えることで地域の文化財保護に対する意識の向上が期待できる。	A	

\* 評価及び総合評価（A＝拡充 B＝継続 C＝改善 D＝廃止 E＝完了）

## 【内部評価】

これまで保管されてきた埋蔵文化財の資料は、宮古島市の歴史を知る上で貴重な資料であり、資料を整理して公開することにより、学校教育や学術研究に多いに活用できるものと考え。平成25年度では3ヶ所の遺跡の整理が終了しており、今後も保管されている資料の整理拡充を図る必要がある。	総合評価 A (拡充)
--	-------------------

## 【外部評価】

現在膨大な埋蔵物が袋詰めされており、今後も増加するだろう。埋蔵物の活用に向けて年次計画が整理され、順次事業目的に沿って作業が進められている。数多い貴重な歴史資料は宮古島の宝であると同時に教育や学術研究等に寄与するものである。発掘資料の早めの公開により多くの人々に興味・関心を持たせ、揺るぎない認識と探究心を培わせるよう希望する。他埋蔵物の保管場、定期的な維持管理も必要不可欠である。	総合評価 A (拡充)
---	-------------------



# 宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名： 生涯学習振興課

## 【主要施策】

VII 文化の振興 豊かな感性を育む郷土文化の保存・継承をめざして

## 【事務事業名】

市史編さん事業

## 【目的・計画概要等】

平成17年10月「宮古島市」が誕生、改めて宮古圏域全体を対象に5年計画で琉球・沖縄史、日本史も視野におさめ、教育現場で指導教材としても活用できる「宮古島市史」が想定されています。今日までの市民の歴史を記録し、その発展過程を解明するために、平良市史（10巻）、城辺町史（5巻）、多良間村史（全6巻）、及び伊良部村史（1巻）、下地町誌、上野村誌等が編さん事業や町村制施行記念事業として取り組まれてきました。  
 今回の「宮古島市史」は、こうしたこれまでの成果を踏まえるとともに旧市町村史編さん事業の過程において残された課題や、新たに発掘された史資料を加えて編集発行するものです。

## 【実施状況】

○宮古島市史第一巻「みやこの歴史」増刷（500部） ○宮古島市史資料「宮古方言集」発刊（500部） ○委員会の開催 ・編さん委員会・・・3回 ・小委員会・・・6回（自然編3回、祭祀編3回）	決算額（財源内訳）	
	国・県	0 円
	地方債	0 円
	その他	0 円
	一般財源	11,109,461 円
	計	11,109,461 円

## 【担当者説明】

区分	説明	評価	担当者（主管課）評価・コメント
必要性	一般に「沖縄史」というとき、往々にして首里、那覇を中心とした沖縄本島に限定され宮古・八重山は欠落しがちです。宮古島市史編さん事業のもつ意義がここにあります。	A	総合評価：A（拡充）  今回の「宮古島市史」は、こうしたこれまでの成果を踏まえるとともに、旧市町村史編さん事業の過程において残された課題や、新たに発掘された史資料を加えて編集発行されるものです。 また、市民に親しみやすい宮古の歴史を編さんし、郷土への誇りを育む意義もあります。 宮古島市史編さんは、あすの宮古づくりの市民のよき道標となると考え、今後は調
効率性	宮古島市史とはいえ、多良間村も含めた宮古郡全体を視野に収め沖縄全域のひいては、日本の歴史の中で欠くことのできない重要な構成部分として位置付けてあります。	A	
有効性	宮古圏域全体を編集の対象とし、広く沖縄全域、日本全国を視野に編集され、貴重な史料となります。	A	

\* 評価及び総合評価（A=拡充 B=継続 C=改善 D=廃止 E=完了）

## 【内部評価】

宮古島市史は、旧市町村史編さん事業の課程において残された課題や、新たに発掘された史資料を加えて編集発行するものであり、貴重な史料となります。 今後は、調査等の事業拡充を図り、市民に親しみやすい「宮古島市史」の発刊に向けた取り組みが必要である。	総合評価  A （拡充）
--	-----------------------

## 【外部評価】

少子化や国際化が進展する現在、人々の価値観も多様化し地球的規模変遷がある。現況を踏まえ新市誕生と市民のアイデンティティを鼓舞するうえからも大事な事業である。本年度の史資料の発刊メインの「宮古方言集-第1集-」は端的に編集されていて親しみやすい資料となっている。今後の続編等の発刊に向けて宮古方言が日本語の語源となっていることばや注釈等、そして古くから県外の国立図書館蔵書の宮古方言事典とも関連させながら取り組んでいただきたい。小さな宮古島だが地域特異性が大きく貴重な歴史資料とするため甚大な調査編集にご尽力いただきたい。	総合評価  A （拡充）
--	-----------------------

# 宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名： 生涯学習振興課

## 【主要施策】

VII 文化の振興 豊かな感性を育む郷土文化の保存・継承をめざして

## 【事務事業名】

宮古島市neo歴史文化ロード整備事業

## 【目的・計画概要等】

現在、宮古島市で展開している既存の歴史文化ロードは、平良地区の「綾道（あやんつ）北コース」のみである。このコースを拠点に、旧市町村の各地域に所在する「宮古島らしさ」に特化した文化財を中心とする散策コース等の整備を行う。  
 「neo（ネオ）」とは、「新しい（ギリシャ語）」「復活（英語）」という意味を持つ。伝説と民話に彩られたロマン溢れる「宮古島特異の歴史と文化」。今日まで語り継がれてきた先人達の叡智である文化財を復活させ、それらを巡る新たな観光資源の創造を図り、広く活用する。

## 【実施状況】

○平成25年度整備実績 ・コースの策定 ①平良北コース、②下地・来間コース ・修理事物 祥雲寺の石垣 ・宮古島市文化財WEB公開システムの構築	決算額（財源内訳）	
	国・県	58,188,000 円
	地方債	0 円
	その他	0 円
	一般財源	14,547,368 円
	計	72,735,368 円

## 【担当者説明】

区分	説明	評価	担当者（主管課）評価・コメント
必要性	各地域に所在するそれらの文化財を観光活用するために必要不可欠なものであると考えます。	A	総合評価：A（拡充）  この「宮古島歴史文化ロード整備事業」は、観光立島である宮古島のアピールポイントを、「人」「自然」「食」だけではなく、それらを守り伝えてきた先人達の叡智である「文化」が全ての背景にあることを重要視し、新たな観光資源の一つとして確立するために、この整備事業は必要であると考え、今後は拠点となる物件（遺跡等）の整備に係る土地の公有化など事業拡充を図っていきたくと考えています。
効率性	県内でも独特の文化を持つ宮古島の歴史にふれる文化財を新たな観光資源の一つとして確立する。	A	
有効性	観光需要の効果も期待でき、それにより地域住民の文化財保護に係る意識の向上につながると考えます。	A	

\* 評価及び総合評価（A＝拡充 B＝継続 C＝改善 D＝廃止 E＝完了）

## 【内部評価】

宮古島市の各地域に存在する文化財を、「宮古島市neo歴史文化ロード」として整備し、新たな観光資源の一つとして確立する。 今後は、拠点となる物件（遺跡等）の整備に係る土地の公有化などを含め、事業拡充を図る必要がある。	総合評価  A （拡充）
--	-----------------------

## 【外部評価】

「豊かな感性を育む郷土文化の保存・継承を目指して」の主要施策のもと、情報化時代に即した宮古島市文化財WEB公開システム構築ができあがっており、楽しく活用できるのは他に例を見ない事業であり効果が期待される。私的で浅はかだが、宮古島に日本最古の石橋「池田砦」が存在することを県外で聞き、島民として大きな誇りと自負を持った。他に多数特異な歴史・文化が存在することから内外への積極的な発信と環境整備にご尽力を願う。	総合評価  A （拡充）
---	-----------------------

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名： 総合博物館

【主要施策】

Ⅳ 文化の振興 文化の振興と文化財の保存・保護並びに活用の推進

【事務事業名】

収蔵品図録等作成事業（歴史編）・地域色豊かな精神事業

【目的・計画概要等】

博物館に寄贈された8,000点以上の資料を整理、活用するため目録誌を作成する。また、館内にある常設展示と併せて宮古の文化の信仰である御嶽の映像を市民や観光客に広く紹介する。

【実施状況】

		決算額（財源内訳）		
		国・県	円	
○博物館収蔵品図録等作成事業	1 報償費（嘱託職員2名）	3,537,000円	6,392,000 円	
	2 印刷製本費（図録等作成）	777,000円		
		地方債	0 円	
○地域色豊かな精神事業	1 委託料	3,675,000円	その他	0 円
			一般財源	1,597,000 円
		計	7,989,000 円	

【担当者説明】

区分	説明	評価	担当者（主管課）評価・コメント
必要性	収蔵する資料の保管、整理及び管理し展示することは博物館の重要な役割である。目録を作成することにより幅広い情報の提供及び共有につながり半永久的な保存が可能となる。	A	総合評価：A（拡充） 収蔵品の整理及び分類に必要な目録を作成し、併せてデータベース化の作業を行う。「歴史資料編」30部を製本し、今後の研究活動や教育の場で活用する。また、本市には800近く存在する御嶽を30箇所映像と音声で紹介充実した博物館の運営を図る。
効率性	研究機関や問合せなどに敏速に対応できる。	A	
有効性	最新の情報を伝えることで、本市の博物館のPRや観光振興につながり、市民にも宮古の文化をより一層、知ることができる場になる。	A	

\* 評価及び総合評価（A＝拡充 B＝継続 C＝改善 D＝廃止 E＝完了）

【内部評価】

博物館収蔵品図録を作成し、併せてデータベース化の作業を行い、市民や観光客に広く紹介する。これまで、「歴史資料編」と「自然資料編」を発刊しているので、今後は、「民俗資料編」の発刊に向けて事業拡充する。	総合評価 A (拡充)
---	-------------------

【外部評価】

収蔵品の図録及びデータベース化は来訪者にとって容易に検索でき、その現物が確認できたら解得しやすい。今年度は30ヶ所の御嶽の映像化並びに短いナレーション付きの資料もできあがり、宮古島の生活・信仰文化等の理解と利活用の基盤となる。残りも早めに収録できればと思う。そしてこの事業の継続と御嶽の環境整備、保存等を行い、人間の在り方・生き方に貢献できることを切に希望する。	総合評価 B (継続)
---	-------------------

# 宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課 名：教育総務課

## 【主要施策】

V 教育行政の充実・強化

## 【事務事業名】

教育委員会の活動

## 【目的・計画概要等】

宮古島市における様々な教育課題を解決し、適切な教育行政の運営に資することによって、教育の振興を図ることが教育委員会活動の目的です。具体的には月1回の定例会、また、必要に応じて臨時会を開催しており、主に教育に関する基本的な方針や規則・要綱等の制定等を決定します。  
今後も、積極的に地域の実情や意向を把握し、教育施策の展開を図ります。

## 【実施状況】

会議：定例会12回、臨時会8回、教育行政推進連絡会議2回 学校訪問23回（入学式・卒業式・総合訪問等） 研修会7回（県教育員会連合会、宮古地区協議会等） 学校規模適正化関係 10回（勉強会、説明会等） その他17回（教育の日・成人式等）	決算額（財源内訳）	
	国・県	円
	地方債	円
	その他	円
	一般財源	3,469,231 円
	計	3,469,231 円

## 【担当者説明】

区 分	説 明	評 価	担当者（主管課）評価・コメント
必要性	地方教育行政の組織及び運営に関する法律により組織されている。	A	総合評価：A（拡充）  懸案事項である学校規模の適正化については、対象地区での説明会参加、勉強会への参加等情報共有にも取り組んでおり、定例会・臨時会での議論など積極的な活動をしており、課題解決に取り組み、教育行政の発展に寄与している。学校規模適正化の課題が前進しており、今後も学力向上、施設の有効活用などを含めた様々な課題解決に向け取り組む必要がある。
効率性	県教育庁主催、県連合会主催の研修会、また、宮古地区教育委員会協議会等にも参加するなど、質の向上にも取り組んでいる。	A	
有効性	学校規模適正化等教育行政に関わる諸課題等を各委員で議論・協議することで課題解決に取り組んでいる。	A	

\* 評価及び総合評価（A = 拡充 B = 継続 C = 改善 D = 廃止 E = 完了）

## 【内部評価】

教育委員会活動は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律のより組織されており、様々な教育課題等に対し、研究・協議・議論をとおして解決し、本来の適切な教育運営に資することによって教育行政運営に大きな役割を果たしている。今後とも、山積する教育課題の解決に向けて充実した教育の振興、発展に取り組む必要がある。	総合評価  A （拡充）
---	-----------------------

## 【外部評価】

最近では教育委員会の種々活動状況がマスメディア等をとおして市民によく伝わってきます。主要施策の具現化・実現化に向けた日頃のご尽力に感謝申し上げます。特に児童の学力テストの著しい向上、学校規模適正化の進展など、行政、学校、家庭、地域社会等が協力し合い、元々教育情熱の高い宮古島の再構築へ向かっていることをうれしく思う。教育のけん引役として更なる活動を願う。	総合評価  A （拡充）
---	-----------------------